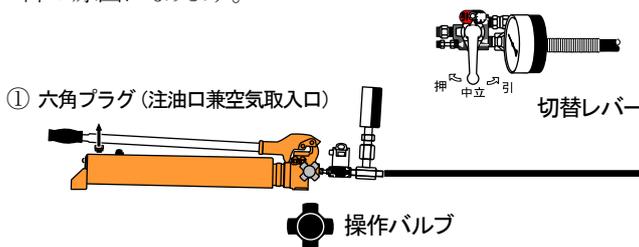
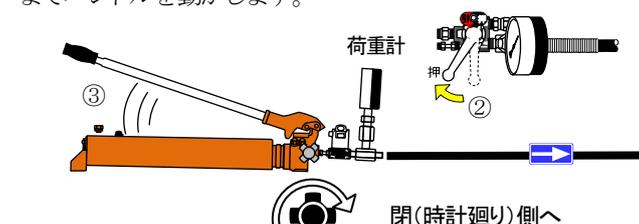
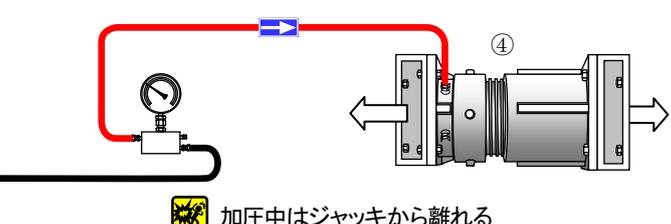
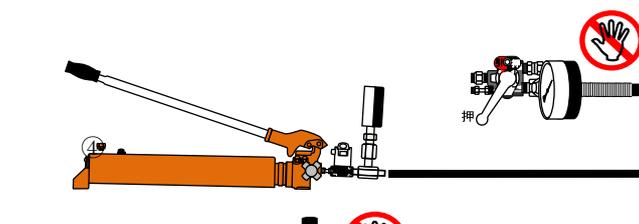
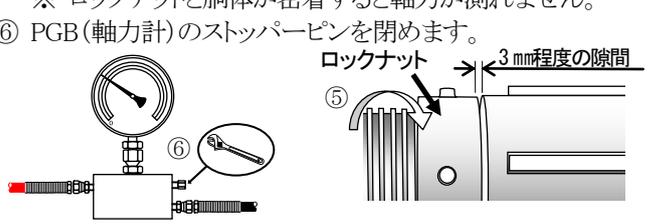
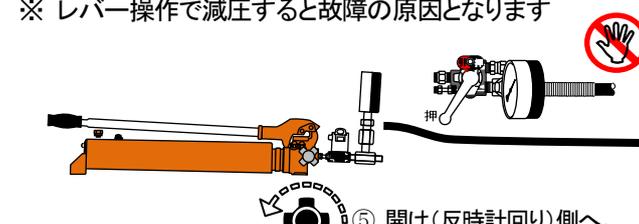
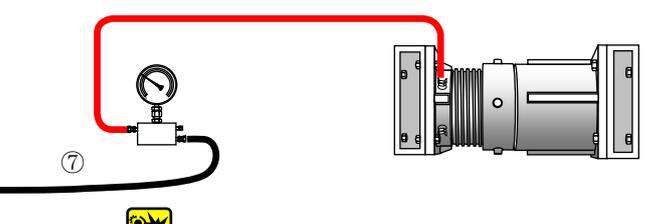
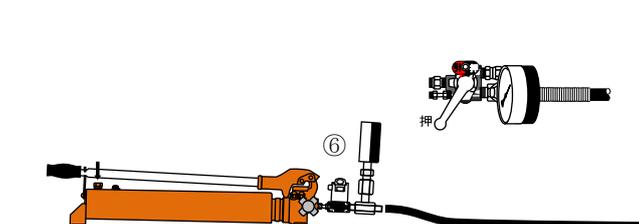
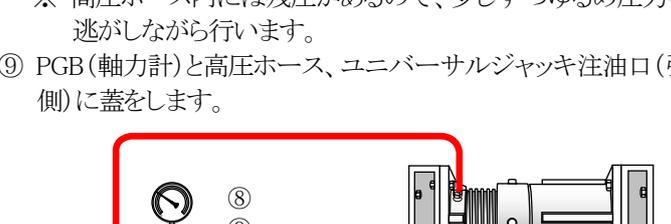


復動 (DN-type) PGB 加圧

手動ポンプ (DPC-DN)	手順	ユニバーサルジャッキ (DN 型)
<p>① タンク注油口の蓋(六角プラグ)をゆるめ、タンク内に空気が入るようにします。 ※ 注油口の蓋を閉めたまま操作をしますとタンク内圧が上がり故障の原因になります。</p>  <p>① 六角プラグ (注油口兼空気取入口) 切替レバー 操作バルブ</p> <p>⚠ タンク内オイルの残量に注意!</p>	<p>1. 加圧準備 (配管)</p>	<p>① ジャッキの押し側注油口とPGB (軸力計) PGB (軸力計)と油圧ポンプ其々を高圧ホースでつなぎます。 ※ PGB (軸力計)の高圧ホース接続はポンプ側とジャッキ側が決まっています。 ② PGB (軸力計)のストッパーピンを緩めます。 ③ ジャッキの引側のキャップを外します。</p>  <p>① ② ③ 高圧ホース PGB (軸力計) ストッパーピン DN 型ユニバーサルジャッキ</p>
<p>② 切替レバーを押し側にし、操作バルブを閉めます。 ③ 荷重計の値を見ながら所定の加圧量又は、ストローク量になるまでハンドルを動かします。</p>  <p>③ 荷重計 ② 閉 (時計廻り) 側へ</p>	<p>2. 加圧</p>	<p>④ ジャッキ内部にオイルが送り込まれ、ジャッキのストローク (ネジ部) が伸びます。</p>  <p>④ 加圧中はジャッキから離れる</p>
<p>④ 所定の加圧量或いはストローク量に達したら手動ポンプの操作を中断します。</p>  <p>④ ジャッキ操作中はポンプに手を触れない!</p>	<p>3. ロック① (ストローク) 量維持</p>	<p>⑤ 手でロックナットを廻し、胴体側に移動させます。ロックナットと胴体の間を 5~3 mm 程開けます。 ※ ロックナットと胴体が密着すると軸力が測れません。 ⑥ PGB (軸力計)のストッパーピンを閉めます。</p>  <p>⑤ ⑥ ロックナット 3mm程度の隙間</p> <p>⚠ ロックナットを廻す時は指の挟まれに注意!</p>
<p>⑤ 操作バルブをゆっくりと少しずつ開け側に廻し、圧力を抜いていきます。 ※ レバー操作で減圧すると故障の原因となります</p>  <p>⑤ 開け (反時計回り) 側へ。</p> <p>⚠ 急なバルブ操作は大変危険です!</p>	<p>4. ロック② (ストローク) 量維持</p>	<p>⑦ PGB (軸力計)と油圧ポンプの間の高圧ホースがたるみ始め、高圧ホース内の圧力が抜けて行くのがわかります。</p>  <p>⑦ 加圧・減圧中はジャッキから離れる</p>
<p>⑥ 荷重計の値が"0"になったことを確認してから、高圧ホース解体作業に移ります。</p>  <p>⑥</p>	<p>5. 配管解体 (片付け)</p>	<p>⑧ 圧力が抜けきったら PGB (軸力計)のポンプ側の高圧ホースをスパナで外します。 ※ 高圧ホース内には残圧があるので、少しずつゆるめ圧力を逃がしながら行います。 ⑨ PGB (軸力計)と高圧ホース、ユニバーサルジャッキ注油口 (引側)に蓋をします。</p>  <p>⑧ ⑨</p> <p>⚠ 周囲にオイルが飛び散った場合、速やかにウェス等で拭き取る</p>